

講義名	経営情報論			
担当教員	赤川 元昭			
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

今年度は、新型コロナウイルスのため、従来の講義形式ではなく、オンデマンド型もしくは課題学修型の授業（RYUKA Portal の「講義連絡」機能を通じ、教員から提示された小テストやレポート課題の答案を提出する授業）などの遠隔講義になる可能性があります。遠隔講義の場合、従来型の講義と異なっているのは、教科書を使うことと、授業計画、そして評価の部分です。シラバスを熟読の上で、履修するかどうかを決めること。

コンピュータに代表される情報技術の進歩は目覚しく、20世紀後半以降、われわれの社会を大きく変革してゆく原動力となっている。経営情報システム論では、学生が情報技術に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。また、講義内容を具体的に理解しやすいものにするため、ビデオなどの視覚教材をできる限り利用する予定である。コンピュータに代表される情報技術の進歩は目覚しく、20世紀後半以降、われわれの社会を大きく変革してゆく原動力となっている。経営情報論では、学生が情報技術に関する基本的な知識を身につけるとともに、情報技術が企業経営にどのように役立っているのかを理解することを目的とする。なお、当講義は「経営情報システム論（前期開講）」と一対をなす科目であり、情報技術に関する基本的な知識については、主に経営情報システム論で詳しく解説する。このため、情報技術について興味のある学生や、情報技術がよく分からない学生は、あらかじめ、私が担当している「経営情報システム論（前期開講）」を履修することが望ましい。

到達目標

- ・情報化時代を生きる社会人として、最低限必要な情報技術に関する知識を身につける（たとえば、ごく基礎的な情報技術用語を説明することができる）。
- ・企業の事例を通じて、情報技術が企業活動のどのような局面で利用され、どのように役立っているのかを具体的に述べることができる

提出課題

小テストやアンケート等を複数回実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

小テストについては、講義期間中にその解答の解説を行う。アンケートについては、特にフィードバックは行わない。

評価の基準

- ・小テストをもとに総合的に評価する。
- ・ここ数年では、合格者の割合は80%程度、平均点は約70点である。

履修にあたっての注意・助言他

ごく当たり前のことだが、他の受講生に迷惑をかけるような行為（私語など）は慎むこと。

教科書				
. 栢木先生のITパスポート教室 令和03年.	栢木厚	技術評論社	1580	978-4-297-11714-6
. 遠隔講義の場合のみ使用.				

プリント資料及び参考文献

参考文献
「経営情報システム(第4版)」 宮川公男著 中央経済社

授業計画

遠隔講義の場合

- 1 - 2 アルゴリズムとプログラミング
- 3 - 6 企業活動と法務マネジメント
- 7 - 11 経営情報システム戦略
- 12 - 15 マネジメント

従来の講義の場合

- 1 はじめに：この講義の概要
- 2-3 インターネット
- 4-7 情報技術とマーケティング活動に対する影響
- 8 人間行動と情報
- 9 組織活動と情報
- 10 経営情報システム
- 11 高度な企業情報システム
- 12 戦略的情報システム
- 13 システムの計画と設計
- 14 戦略実務プロセス
- 15 事例研究

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

教科書で予定箇所を予習し、オンデマンド講義（ビデオ）終了時にはさらに復習が必要である。1回の講義に関する下調べと復習で4時間程度かかると思われる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目の到達目標を達成することは、本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）における「卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」および「基礎能力」の中で、情報収集力、情報分析力の項目に寄与するものと思われる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考